

VOC排出量 44%削減 建産協



日本建材・住宅設備産業協会(建産協)は、2006年度のVOC自主行動計画の実績を公表しました。VOC排出量は、基準年の2000年と比較し、2006年度で43.8%減の4508トンとなりました。建産協では2008年度で同50%、2010年度で同60%の削減目標を掲げており、代替物質への切り替えや設備の改良などで目標達成を目指すようです。

排出抑制対策として、サッシ製造施設ではウレタン注入発泡の高圧化や、配管、ホースの改善を実施し、窯業外装材製造施設では、溶剤系塗料から水系塗料への切り替えにより排出量を削減しました。

建産協では、排出抑制対策と並んで、VOC排出の捕捉率向上、業界取り組み結果の実態把握、塗料や接着剤などの関連団体との連携を図っていくようです。

VOC排出抑制制度は2004年5月の大気汚染防止法の改正により制定されました。規制の方法はベストミックスと言う方式を取っています。これは、VOC排出量の多い施設に対しては排出口の出口に法による規制をかけ、その他の施設に対しては事業者の自主的取り組みによって削減することとしています。

2000年を基準に2010年までに3割削減するうち、自主的取り組みによる削減目標は2割となっており、経済産業省では業界団体に対し、自主的取り組みの促進を促しています。

今回の建産協の公表はこの自主的取り組みに関する結果です。

当社では公定法に基づく揮発性有機化合物の測定を行っています。ご依頼・ご質問等ございましたら、お気軽にご相談下さい。

資料 2007年10月17日付 化学工業日報

2007年5月11日付 EIC ネット

クロマト分析箇所 木村俊